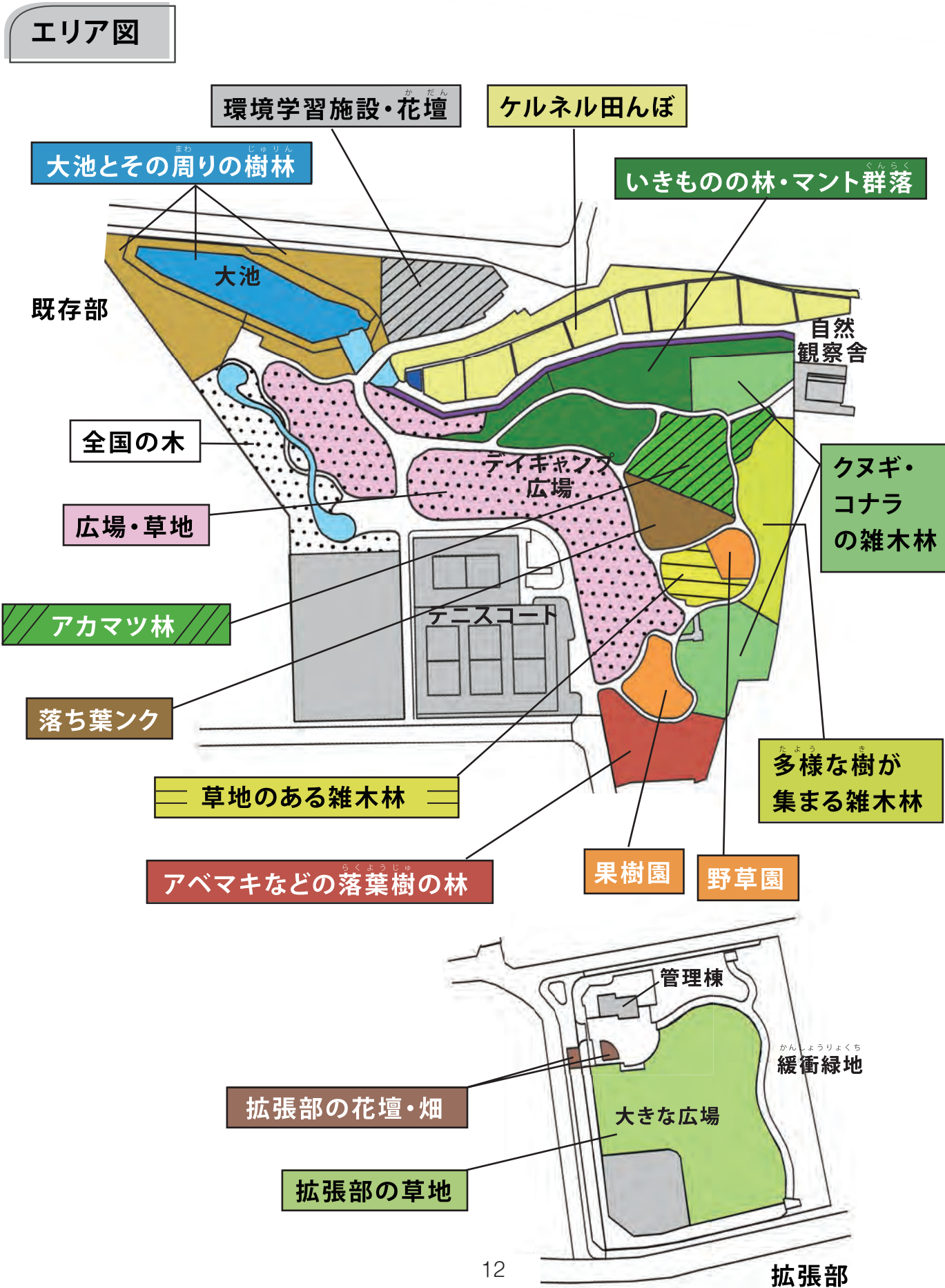


エリアごとの管理

植生などの自然環境を考慮して公園をいくつかのエリアに分けました。エリアごとに目標を立て、管理していきます。



目標とするすがた

- クヌギやコナラを計画的に伐採し、萌芽更新※のサイクルが安定している。
- 雑木林に影を落としていたり腐植が進行した高木は伐採され、地面まで光が届くような明るい雑木林となり、スミレ等の草花が生育している。
- 樹液にはクワガタ等の雑木林を好む昆虫等が訪れている。

※萌芽更新：里山における樹木管理の方法のひとつです。クヌギやコナラなどの広葉樹の幹を切ると、切り株や根から新しい芽がたくさん伸びてきます。このめばえ（萌芽）を育て、雑木林の若返りを行うことを萌芽更新といいます。

どんな管理をする？

目標指標種※：タチツボスミレ、コクワガタ、アズマモグラ

管理内容	担い手	頻度
大きくなりすぎた高木を剪定や伐採をし、林床に光が届く雑木林にします。	目黒区	適宜
・切り株のエリア、萌芽中のエリア、伐採適期のエリアがそれぞれある程度まとまってみられるよう、クヌギやコナラの伐採（若返り）を行い、必要に応じて苗木を補植します。 ・小学校の参加等によって、どんぐりからの育成をします。	自然観察舎 森のみどり人 近隣学校	毎年
・林床には、スミレやクサイチゴなどの草花が園路から見られるよう、ササなどの刈り取りを定期的に続けます。 ・一部のササや樹木が茂る場所は、昆虫やクモ、鳥の利用場所として残します。	自然観察舎 森のみどり人	適宜

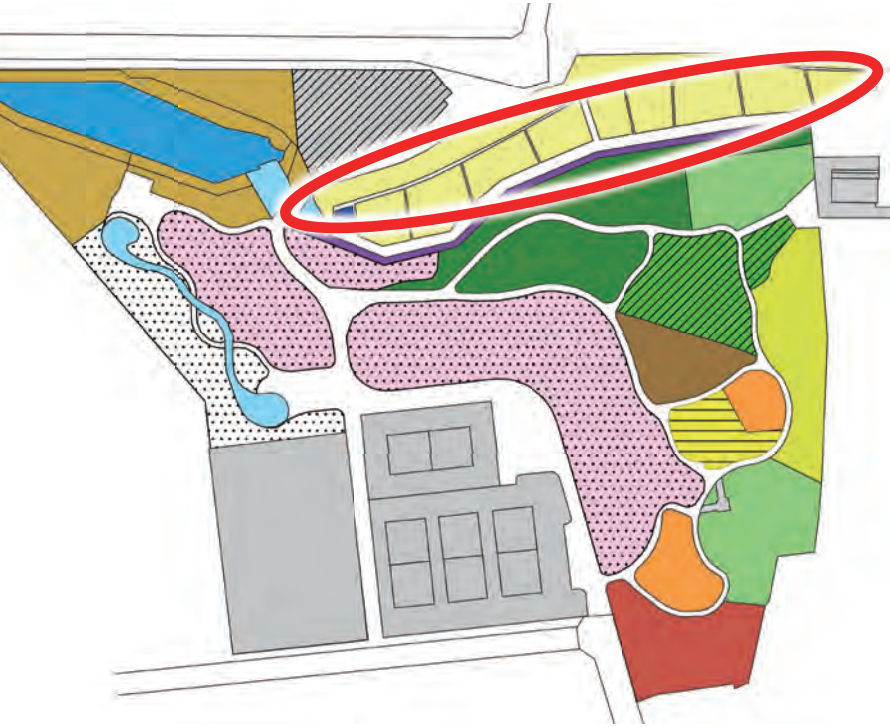
※目標指標種：P37～具体的な種について、生態などを解説しています。



田植え前



田植えの様子



ケルネル田んぼ

目標とするすがた

- ・無農薬での稲作が継続され、湿地のような環境を好むヒキガエルやキツネノボタン等を観察することができる。
- ・イネの生育に影響のある高木を伐採し、田んぼに日光がよく当たるようになっている。
- ・北側の土手は、ヒガンバナやナノハナ等のほかツクシや野菊などの在来種がみられ、小動物の生息地となっている。

どんな管理をする？

目標指標種：オモダカ、オニヤンマ、メダカ、ニホンアマガエル

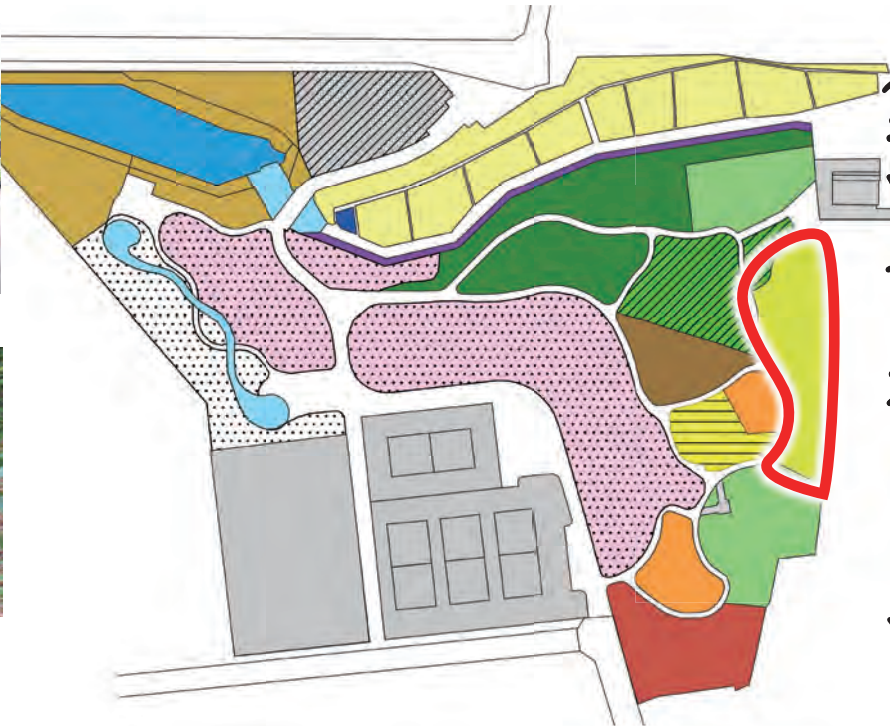
管理内容	担い手	頻度
無農薬・有機稲作を維持し、教育田としての活用を継続します。	筑波大学附属駒場中・高等学校	毎年
・水田植物やバッタ類の生息・生育状況をモニタリングします。 ・田んぼのいきものや稲作について学ぶ場とします。	自然観察舎 自然クラブ	毎年
・田んぼのイネに十分に日が当たるよう、周辺樹木の剪定や伐採を行います。 ・補植したドウダンツツジの保護、園路側の桜の保全を行いながら水田内の植生を保護していきます。 ・水田北側の土手の草刈りは、モザイク状になるように管理を行い一部を残します。	目黒区 自然観察舎	適宜



雑木林の様子



このゾーンに多く生育している
キツネノカミソリ



多様な樹が集まる雑木林
(キツネノカミソリゾーン)

目標とするすがた

- ・常緑樹を含む多様な種で構成され、階層構造を持つ林として管理されている。
- ・一部ササやぶを残し、ウグイスや湿り気を好むヒメウズ等も共存できるよう、モニタリングを行いながら管理されている。

どんな管理をする？

目標指標種：キツネノカミソリ

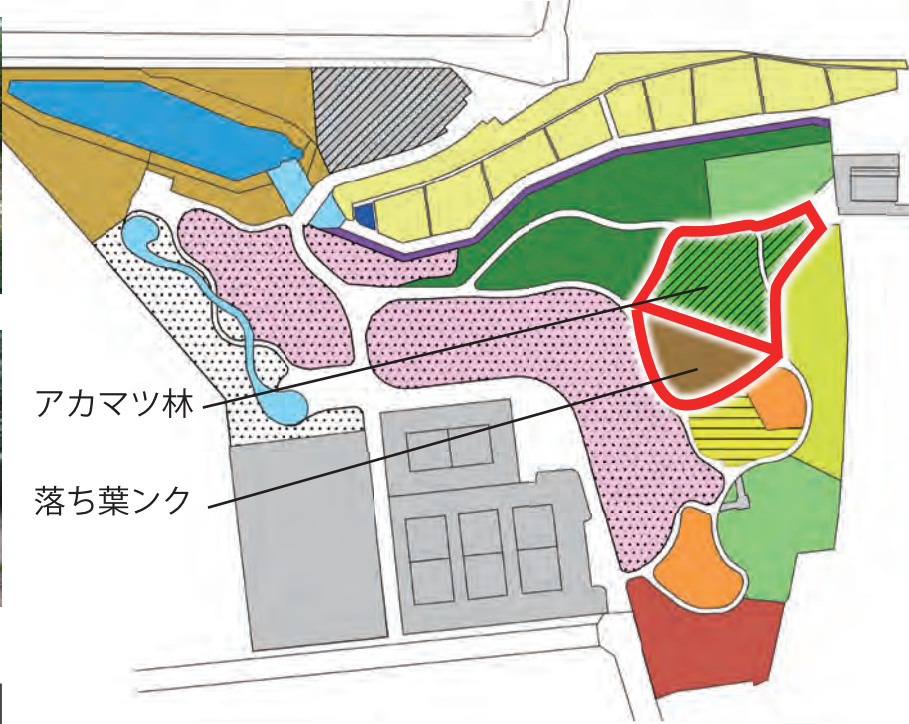
管理内容	担い手	頻度
【樹木管理】 ・ミズキやケヤキ、シラカシ等の上層木の剪定や、常緑広葉樹の実生の伐採をします。 ・クヌギ・コナラなどの育成を図り、これらの種に関しても計画的に萌芽更新や苗木更新、剪定を行います。 ・ミズキやエノキ等の落葉広葉樹は、果実を鳥類が捕食し、葉をチョウの幼虫などが採食するため、生育状況を管理しながら育成します。 ・隣地境界部は、生垣等により緩衝地とします。	自然観察舎 森のみどり人 自然クラブ	毎年
【林床管理】 ・林床の草刈り、落ち葉かきを一部のエリアで継続し、明るい環境を好むキツネノカミソリの育成を維持します。 ・ササ類が繁茂したエリアは、昆虫や鳥類の利用のため一部残します。 ・林床にはヒメウズ、ムサシアブミ、スゲ類等、湿り気を好む種が自生しているため、モニタリングを継続して保全を図ります。	自然観察舎 森のみどり人	毎年



アカマツ林下草刈りの後



落ち葉ンク



アカマツ林
落ち葉ンク

アカマツ林／落ち葉ンク

目標とするすがた

- ・「アカマツ林」を維持し、ウバタマムシのような希少な昆虫の生息や、シジュウカラ等の鳥類の営巣・採餌の場所として保全している。
- ・園内の落ち葉は「落ち葉ンク」に集められ、切り返しなどを行いながら腐葉土として花壇等の土壌改良に活用されている。

どんな管理をする？

目標指標種：アカマツ実生、ススキ、ウバタマムシ、カブトムシ

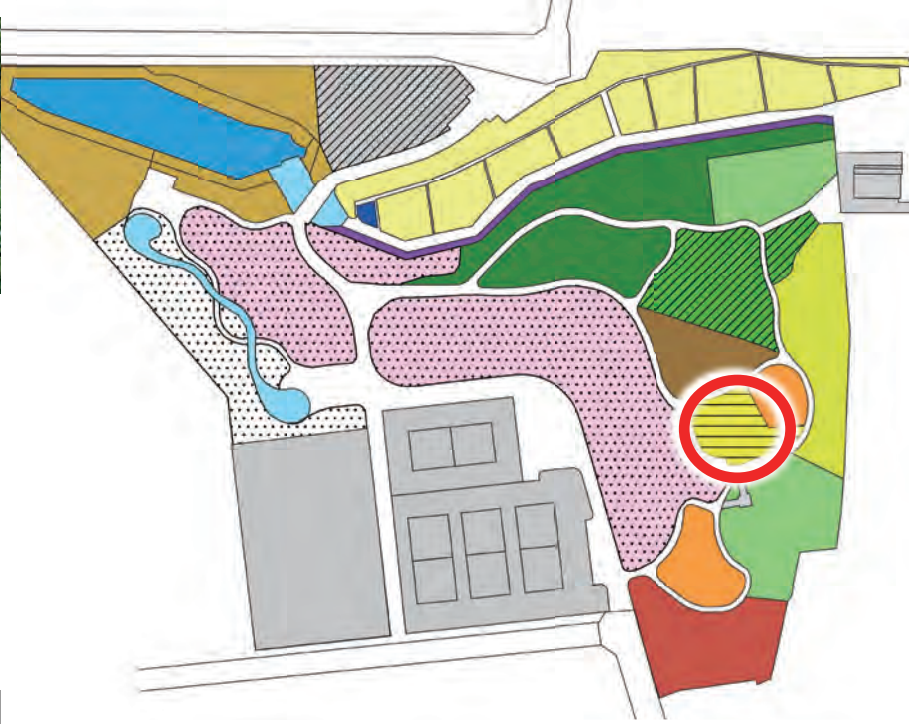
管理内容	担い手	頻度
【樹木管理】 アカマツの樹冠木や後継樹の光環境を向上するため、ポプラ等の大径木は、計画的に剪定や伐採を行います。	目黒区	適宜
【林床管理】 ・アカマツの育成に適した土壌にしていいため、草刈りや落ち葉かきを行います。 ・草刈り前にはアカマツの実生を調査し、実生に印をつける等して保護します。 ・アカマツ林の意義等を普及啓発していくため、林床に落ちている一部の松かさや、公園内の炭焼き行事やクラフト素材として利用します。	自然観察舎 森のみどり人 自然クラブ	毎年
【落ち葉ンク】 ・必要に応じて落ち葉ンクの修繕や拡張をします。 ・指定管理者が、日常的に落ち葉を集めて区画内に重ねていきます。 ・年に一度落ち葉の切り返しを行い、分解が進んだ腐葉土は区画を移動させます。 ・畑や広場の桜など、固くなった土の改良に腐葉土を利用します。 ・園路沿いに普及啓発用の解説板を設置します。	指定管理者 自然観察舎 自然クラブ	適宜



畑の様子



枯れ枝置き場（エコスタック）



草地のある雑木林

目標とするすがた

- ・雑木林を構成するコナラやクヌギやホオノキなどの樹種や、草地に生えるクサイチゴ、朽木(エコスタック)に集まるクワガタムシ類等を観察できる場所になっている。

どんな管理をする？

目標指標種：ウグイスカグラ、クワカミキリ、ニホンカナヘビ

管理内容	担い手	頻度
野草園や雑木林を覆う一部の高木や、針葉樹の剪定や伐採をします。	自然観察舎 森のみどり人 自然クラブ	毎年
・園内で樹木を剪定や伐採をした時に出る枝を束ねて作った柵(そだ柵)で囲い、樹林地の保全を行います。 ・小動物のすみかとなる剪定枝や枯れ枝を積み重ねた「エコスタック」を継続し、いきものの回復を図ります。	自然観察舎 森のみどり人 自然クラブ	毎年
・クサイチゴなど外来植物の群生地として保全しつつ、ササなどの草刈りを定期的に行います。 ・可能な範囲で観察ルートも作り、エコスタックの昆虫類等のモニタリング調査を行います。 ・クヌギの苗畑や供給地としても活用します。	自然観察舎 森のみどり人	毎年



エコスタックのイメージ



そだ柵



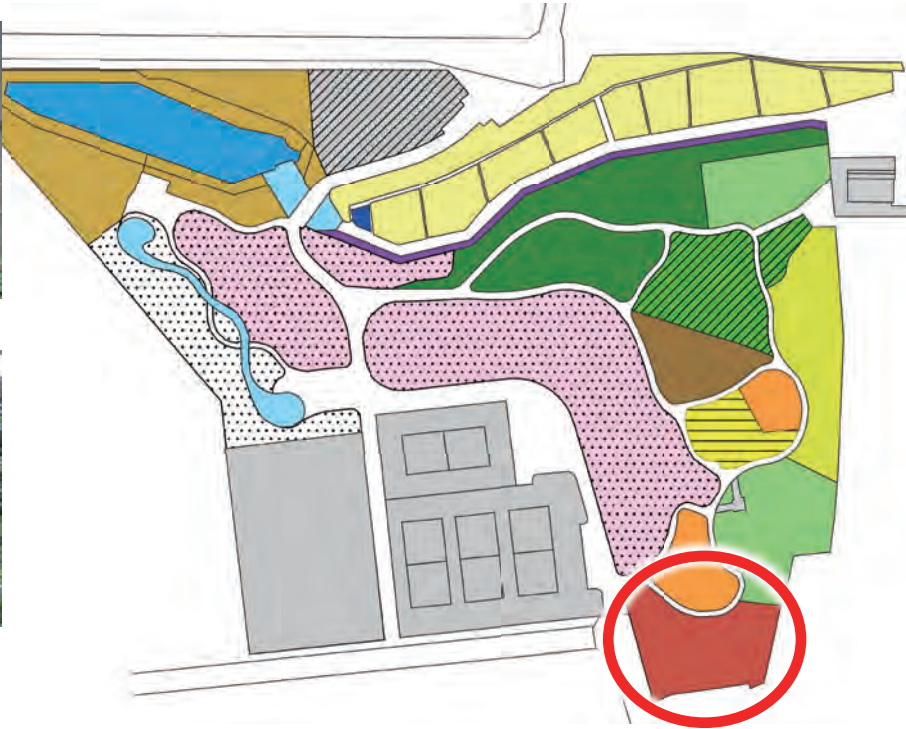
エコスタックに住むニホンカナヘビ



枯れ枝置き場 (エコスタック)



炭置き場



アベマキなどの落葉樹の林

目標とするすがた

- ・ムクロジやアベマキ、イヌザクラ等、様々な落葉広葉樹が見られる。
- ・柵の近くでは炭置き場の周囲に在来の低木が植栽されるなど、ヤード全体が整備され、野菊やスミレ等を観察することができる。

どんな管理をする？

目標指標種：シラヤマギク、ニホンヤモリ

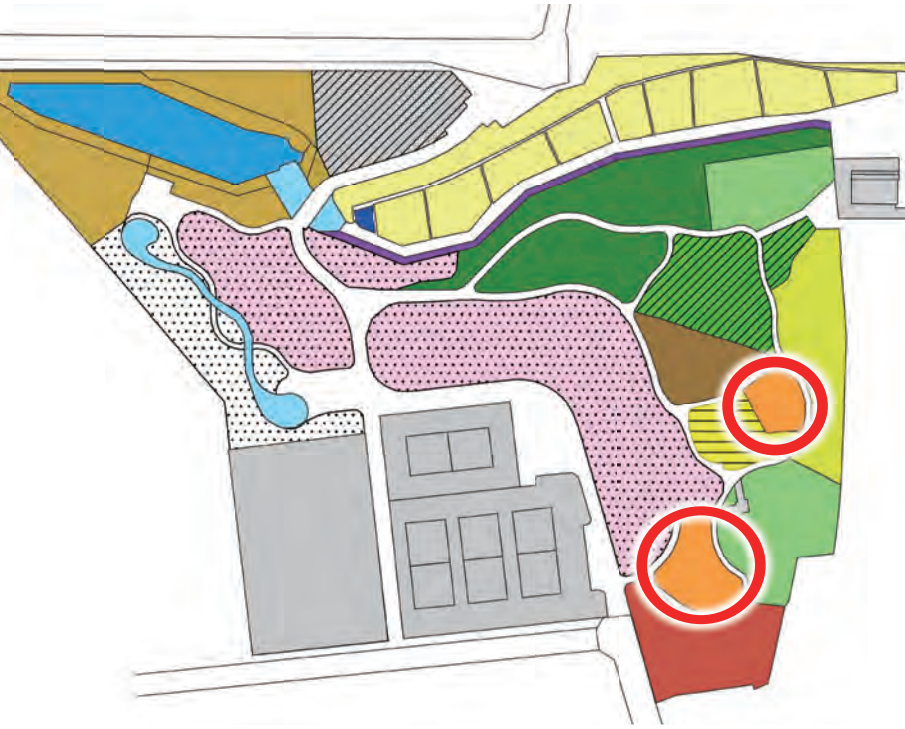
管理内容	担い手	頻度
大木化したアベマキやケヤキは果樹園への日光を遮るほか、いずれ腐植が進行した際、幹が折れたりする危険があるため順次、剪定や伐採をします。	目黒区	適宜
伐採する場合、アベマキやムクロジ、イヌザクラは、直前に後継樹を補植し、更新します。	自然観察舎 森のみどり人	毎年
枝置場は、園路沿いに在来種の低木類を移植または補植をし、景観をよくするとともに、環境学習にも活用します。	自然観察舎 森のみどり人	適宜
バーベキュー場で利用された炭が園路から見えないよう、適宜処理していきます。	目黒区 指定管理者	適宜



果樹園



野草園



果樹園／野草園

目標とするすがた

- ・「果樹園」を維持し、ウメ等の収穫物を使用したイベント等、環境教育に活用している。
- ・「野草園」では、武蔵野の野草など四季の花が咲き、チョウ等が蜜を吸いに訪れて来園者を楽しませている。

どんな管理をする？

目標指標種：エビネ、ヒキガエル、ヒガシニホントカゲ

管理内容	担い手	頻度
【果樹園】 ・南側に隣接する暗い落葉樹林で、一部の高木の剪定や伐採を行います。 ・樹形の乱れた果樹の剪定を行い、樹形を整えていきます。 ・果樹の老朽化の進捗に合わせ、植え替えや後継樹の育成をしています。 ・クサイチゴ等の育成を助けるため、ヤマアイやフッキソウを抜き取ります。 ・ウグイスカグラやモミジイチゴ、クサギ等の中低木の復植を図ります。	自然観察舎 森のみどり人 自然クラブ 目黒区	毎年
【野草園】 ・樹木管理：東側の樹木1～2本、広場側の樹木の剪定、ハンカチノキの枯れ枝の整理を行います。 ・野草管理：プレート等による植物の名前のガイドを継続します。刈り取った植物のうち、オオハンゴンソウ等、問題のある(特定外来種に指定されている)種のみ分別して乾かし、それ以外は、落ち葉たい肥ボックスの裏に持っていきます。問題のある種が乾いたら、1年に1度、穴を掘って埋めます。	目黒区 野の花クラブ	適宜



樹木の様子



草刈りの様子

目標とするすがた

- ・A区域の田んぼ側に広がるマント群落※の重要性について認知されている。
- ・ノイバラやヤマノイモなどが生え、タヌキなどの隠れ家になる現在のマント群落が維持されるほか、クサギなどチョウが蜜を吸いにくる植物等により多様ないきものの住みかとなっている。

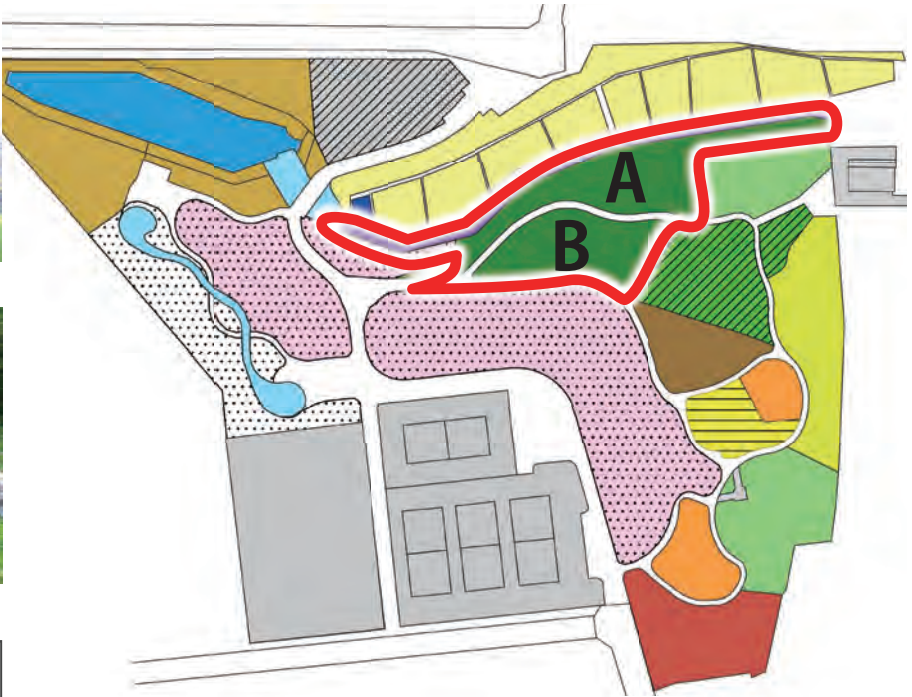
※マント群落：林の林縁部に位置し、つる性の植物や低木が覆っている場所です。駒場野公園では、林と田んぼの境目にあります。林の中に直接風が吹き込んだり、日光が直射して乾燥するのを防いでいます。

どんな管理をする？

目標指標種：アマチャヅル、コガネグモ、シロコブゾウムシ

管理内容	担い手	頻度
A区域のかかしコンクールで利用する部分の植物は、夏に刈り払います。	目黒区 森のみどり人	毎年
A区域のマント群落の意味や、そこに集まるいきものについて、利用者に認知してもらえるよう周知します。	自然観察舎	適宜
樹木が成長し、うっそうとした樹林へ変化してしまわないよう、状況を見て若木の伐採や刈り払いを行います。クサギなどチョウが蜜を吸いにくる植物は残します。	森のみどり人 自然観察舎	適宜
・林床は基本的に手を付けませんが、園路付近の繁茂したササ類は適宜刈ることで草本類の回復を待ちます。一方で、鳥類がササ類を利用するため、刈り残す部分も作ります。 ・高木や大径木について、密になりすぎた樹木を剪定や伐採をします。その後は様子を見て、支障のある樹木のみ剪定や伐採をしていきます。	森のみどり人 自然観察舎 目黒区	適宜
B区域の中低木のうち、ツバキは伐採（利用）します。いきもののため、ある程度の密度を保つことで、バーベキュー広場の影響などが田んぼ側樹林へいくことを防ぐ緩衝帯とします。	森のみどり人 自然観察舎	適宜

いきものの林・マント群落



あずま屋跡から見た大池の様子



大池内の植生

目標とするすがた

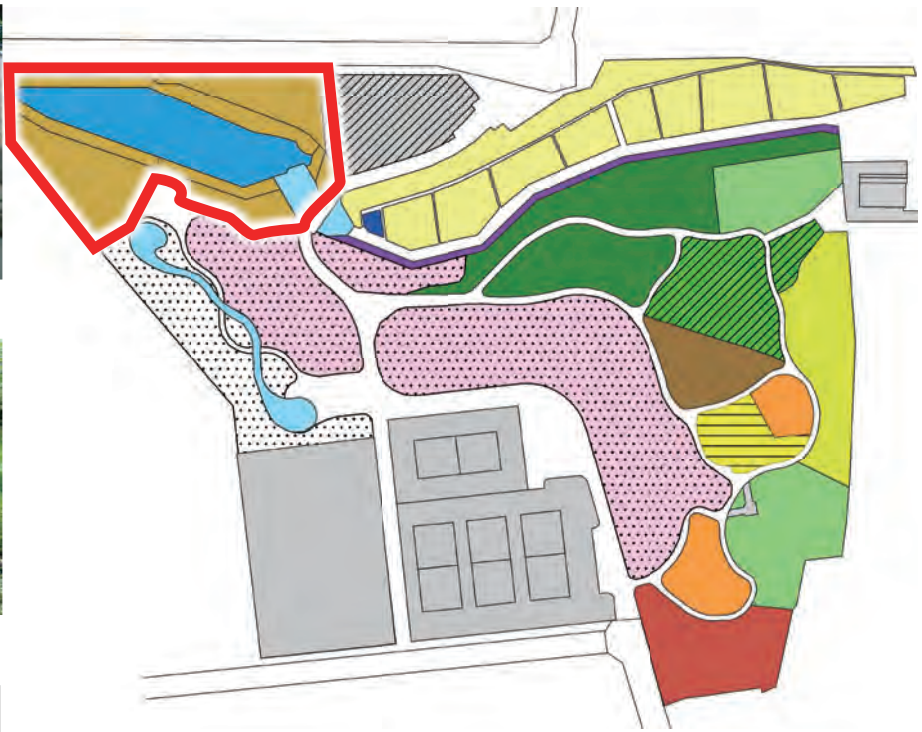
- ・かいぼりやエコトーンの設定、周辺樹木の剪定や伐採などの管理によって池全体が明るくなり、抽水植物のカンガレイや浮葉植物のヒツジグサなどが生育している。
- ・池に産卵するトンボ類や、魚類を採餌するカワセミやサギ類などのサンクチュアリとして、引き続き保全されている。
- ・炭などによる浄化など、水辺の管理とその目的について普及啓発が進んでいる。

どんな管理をする？

目標指標種：ヒツジグサ、ゲンゴロウ類、カワセミ

管理内容	担い手	頻度
【大池】 ・池底の泥を取り除いて水深を維持し、状況に応じてかいぼりをします。 ・水草等が生えるよう、陸域から水辺になだらかにつながる浅場（エコトーン）を整備します。 ・魚類、カメ類、トンボ類のいきもののモニタリング調査を継続して行います。	目黒区 自然観察舎 森のみどり人 駒場野ホタルの会 など	適宜
【周りの樹林】 ・野鳥保護のため、一定の観察場所を除いた園路と池の間の空地は、柵や低木により人の立ち入りを制限します。 ・水面を覆うように張り出している枝の剪定や、危険木の伐採等を行います。 ・大池の斜面地から出てくる実生は、定期的に刈ります。	目黒区 自然観察舎 森のみどり人	毎年
地域の生物多様性保全のためにおこなわれている水辺の管理についての解説看板を設置します。	目黒区 自然観察舎 駒場野ホタルの会	適宜

大池とその周りの樹林





広場



草地



広場・草地

目標とするすがた

- ・「広場」としての利用を継続している。
- ・「草地」を維持し、バッタ類等、草地を好むいきものの生息の両立が図られている。
- ・広場の桜について、「サクラ再生実行計画」に基づき保全が進んでいる。

どんな管理をする？

目標指標種：カントウタンポポ、ショウリョウバッタ

管理内容	担い手	頻度
【広場】 ・広場内の樹木周辺の土壌改良を進めるとともに、桜の植え替えと桜への日当たりをよくするために、クスノキなどの周辺樹木の剪定や伐採をします。 ・広場内には動線を作成し、周辺の土手には柵や低木を植えることで、広場と植栽地の間に明確な境界を設けます。モニタリング調査を継続して行います。 ・草本類の育成のため、特定の時期に部分的に柵を設けて人止めを行います。	目黒区	適宜
【草地】 ・バッタ類等の生息・逃げ場所を確保するため、毎年秋に開催されるこまばのまつりの際に、草地の一部を刈り残したり、刈る時期を調整します。 ・土壌の流出や踏圧により土壌が固くなることを防ぐため、特定の時期に部分的に柵を設置して草地を養生します。 ・バッタ類のモニタリング調査を継続して行います。 ・草地の重要性や管理についての啓発や、解説看板の設置を行います。	目黒区 自然観察舎	毎年



環境学習施設



全国の木



環境学習施設・花壇／全国の木

目標とするすがた

- ・「環境学習施設」はたい肥作り等を通じ、環境学習の実践を継続する。
- ・「花壇」の手入れを通じて土の大切さや草花の魅力を発信している。
- ・「全国の木」は現在ある樹木に県名入りの樹名板をつける等、樹木に親しむ普及啓発が行われている。

どんな管理をする？

目標指標種：ミスジマイマイ、ヒグラシ、ヤマガラ

管理内容	担い手	頻度
【環境学習施設・花壇】 ・花壇の手入れを継続します。 ・ニンジンボクやサイカチ、サンシュユなどの樹勢回復を図ります。 ・衰弱化や病害を受けている危険木については適宜、剪定や伐採をします。	目黒区 駒場小学校 グリーンクラブ	適宜
【全国の木】 ・モミジやカツラ、フキノトウなど季節感のある散策路の育成を図ります。 ・枯れた樹木の補植は行わず、危険木については適宜、剪定や伐採をします。	目黒区 自然観察舎 自然クラブ	適宜



草地の様子



草地拡大

目標とするすがた

- ・「草地」を維持し、人の利用とバッタ類等、草地を好むいきものの生息の両立が図られている。
- ・桜については、「サクラ再生実行計画」に基づいて保全・更新が進んでいる。
- ・「花壇・畑」を維持し、花粉を運ぶハチ類等、園内の自然に目を向けるきっかけの場となっている。

どんな管理をする？

目標指標種：ベニシジミ、シジュウカラ

管理内容	担い手	頻度
緩衝緑地を含め現状の頻度で草刈りを行い、草地を維持します。	目黒区 指定管理者	毎年
バッタ類などの生息状況をモニタリング調査します。	自然観察舎 自然クラブ	毎年
現状の頻度で手入れを行い、花壇・畑を維持します。	花壇：駒場野バラ グリーンクラブ 畑：駒場野 ファーマーズ	毎年



拡張部の草地／花壇・畑



田んぼ最上流のオオシマザクラ

目標とするすがた

- ① コヒガン・ソメイヨシノ並木エリア
公園のエントランスとして思い出の桜並木が復活している。
- ② 広場（低木～亜高木）エリア
ジュウガツザクラを復活させ小型の桜を楽しめるようになっている。
- ③ 広場（高木）エリア
人の利用と高木の桜の保護を両立している。
- ④ 八重桜並木エリア
カンザンに似た小型の品種「コウカ」で八重桜並木を維持している。
- ⑤ 駒場野公園拡張部
土壌改良を行い桜の保全をしている。

どんな管理をする？

管理内容	担い手	頻度
・根回りに園内でつくった落ち葉腐葉土を活用し、土壌改良をします。 ・人の利用と桜の根の保護を両立させるため、可動式の進入防止柵を設置します。(③)	自然観察舎 森のみどり人	適宜
・枯損木の根鉢は掘り取り撤去します。(①) ・根回りは、公園の利用に配慮して柵での保護をします。(②) ・根張りが健全に育つよう根元周辺の植栽帯を広げ、人が踏まないよう縁石の設置や地被類の植栽をします。カンザンが枯死した場合コウカ(紅華)の苗を復植します(④)。 ・根回り周辺に土を柔らかくする土壌改良(エアレーション等)を行います。(⑤)	目黒区	適宜

サクラ景觀



桜並木のカンザン

